

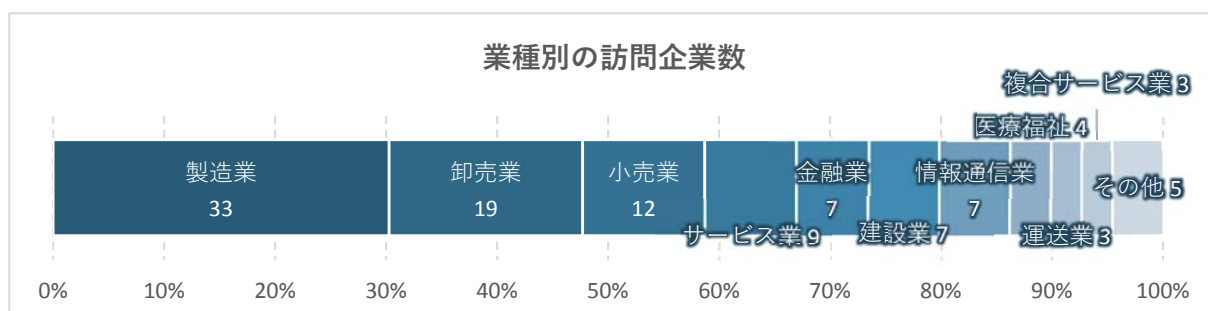
2023年度 長岡大学 就職先アンケート

長岡大学 大学評価室

2022年9月から2023年9月にかけて、就職支援室職員が卒業生の就職先企業・団体を訪問し、就労状況や退職した場合においてはその理由、また求める人物像や本学の良いところ・悪いところなどを採用担当者から聞き取ったものをまとめた。

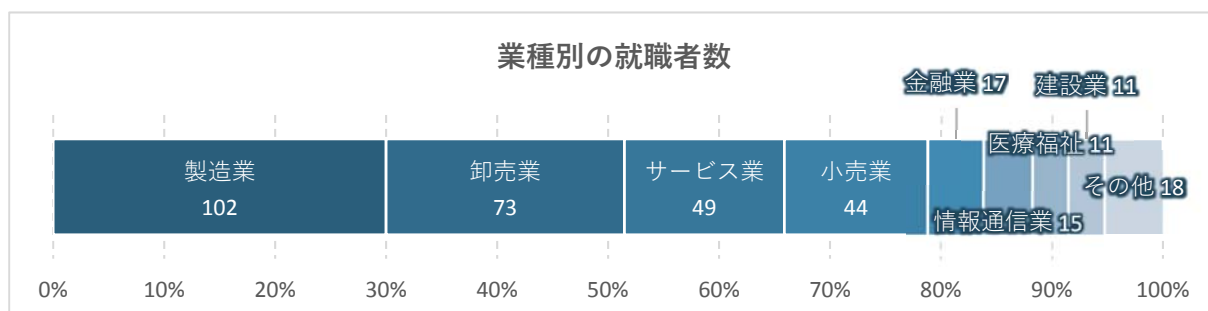
訪問企業・団体数は、延べ129社、複数回訪問している企業等もあるため、実数では109社である。

業種別には、製造業が33社、卸売業が19社、小売業が12社等であり、詳細は以下の「業種別の訪問企業数」の通りである。訪問企業数が2社以下の業種については「その他」にまとめている。



訪問企業109社に就職した卒業生340名の内、各企業等への訪問時点における在籍数は265名で、継続在籍率は77.9%である。

昨年度の同様の調査では289名中216名の在籍で継続在籍率74.7%であった。

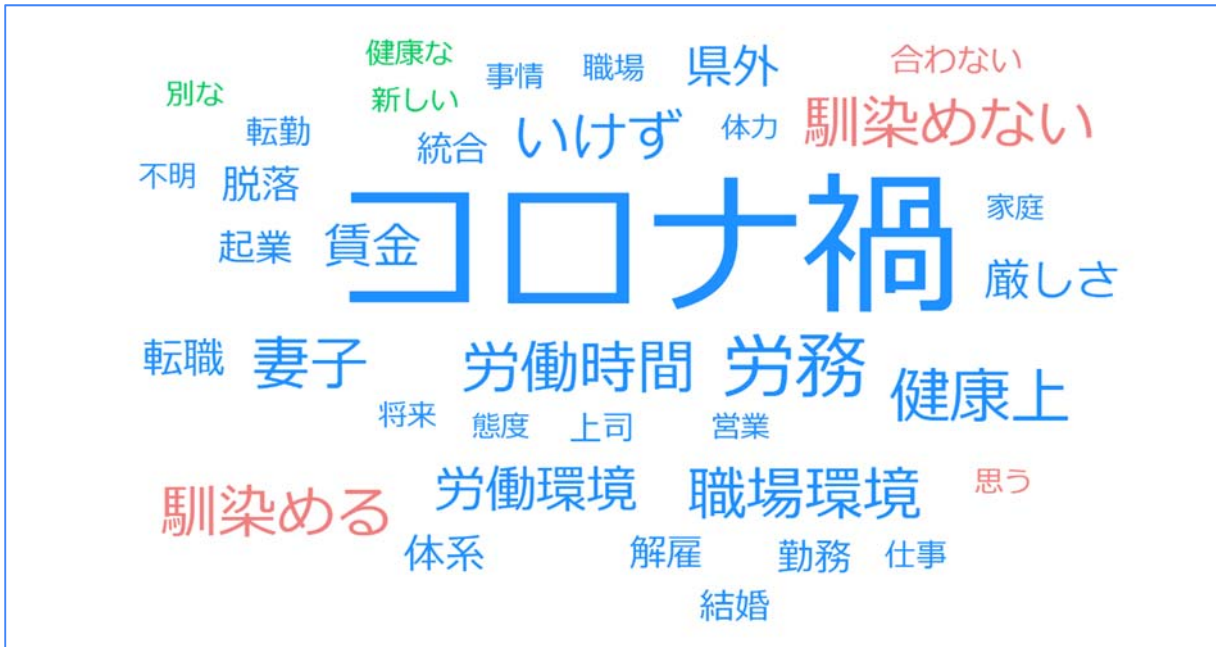


個別企業等別に在籍者や退職者を調査をしているため、企業別・業界別の在籍率も集計はしているが、ここでは省略する。また、退職については本人の意向によらず、新型コロナウイルス感染症禍の影響や、M&Aによる事業所の整理統合などに伴い退職した卒業生を含んでいる。

退職理由

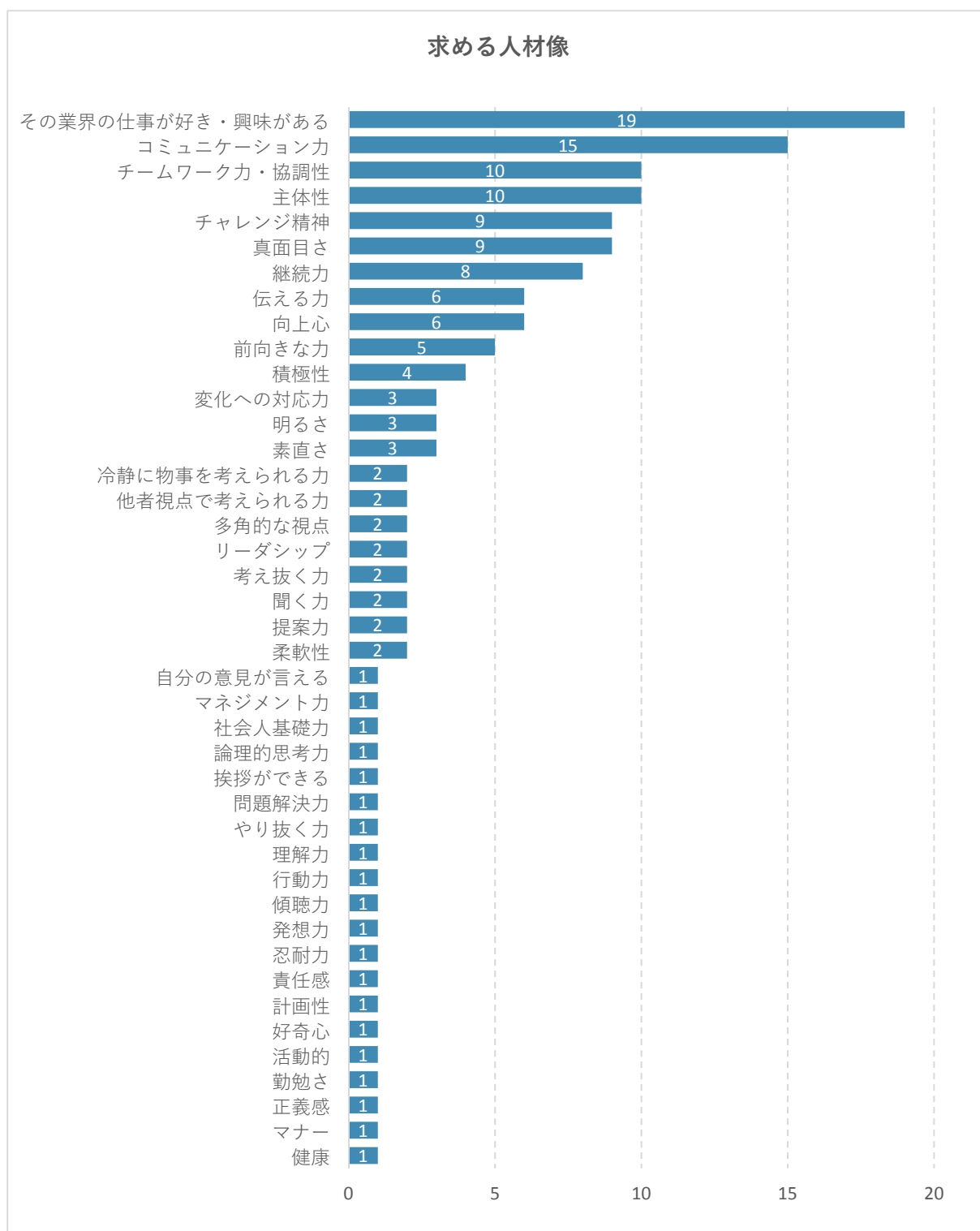
訪問先企業等から聞き取りをした退職理由について、記述内容をそのまま Web サイト上でワードクラウド処理ができる「ユーザーローカル」で処理をした結果が以下の 2 つの図である。

上位がワードクラウド処理時にシステムが、スコアが高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさと表示したものであり、下位は、出現頻度の高い語句が大きく表示される仕様の図である。



訪問先企業等が求める人材像

(聞き取り内容に基づき、類似した意見を同一項目として集約)

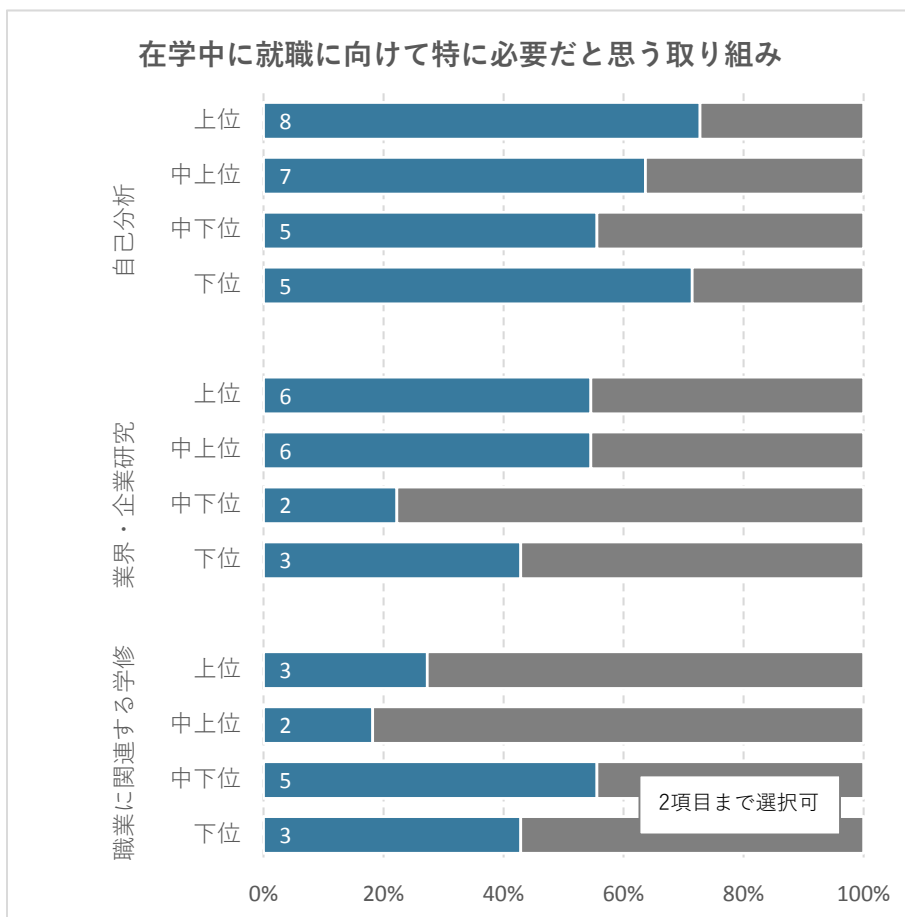
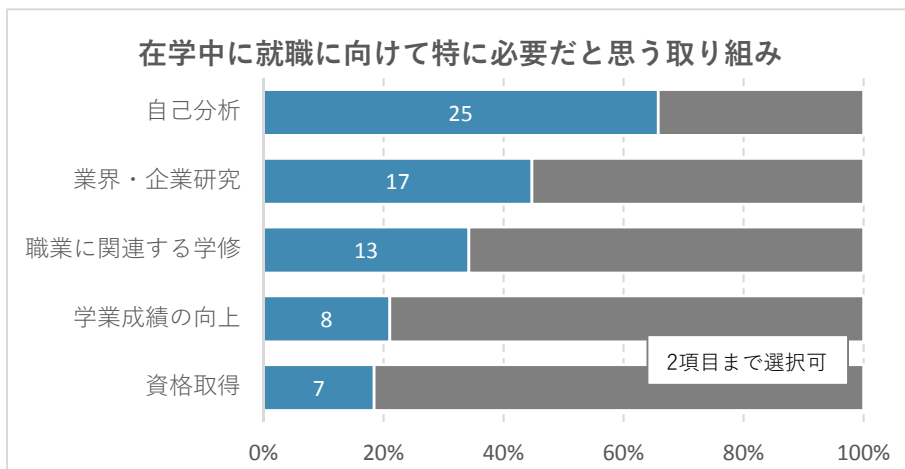


一般的に言われる「コミュニケーション力」よりも、製造業であれば「ものづくりが好き」、情報通信業では「IT・情報関連に興味がある」など、その業界に興味・関心を持っていることが求められており、本学卒業生に限らず採用時・就職時のミスマッチが背景にあると推測される。

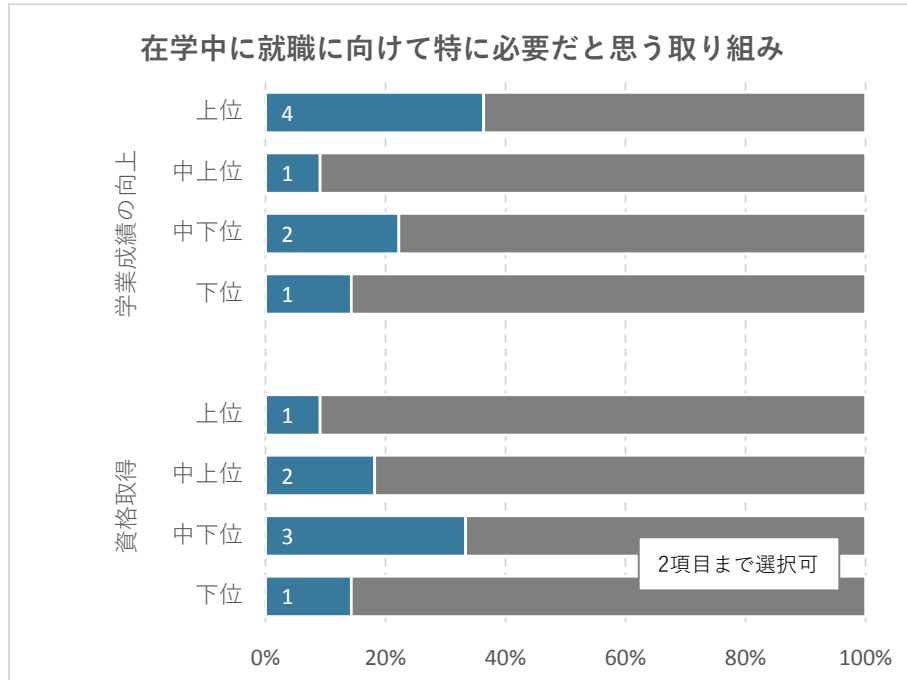
卒業生アンケートでも、「就職に向けて特に必要と思う取り組み」の上位は「自己分析」の 25 件で回答者の 65.8%が選択している。次点が「業界・企業研究」の 17 件で回答者の 44.7%が選択している。

また、在学時の GPA 別でそれぞれの項目の選択人数を見てみると、「自己分析」については、成績によらずすべての属性で 50%を超え必要な取り組みだと考えている。

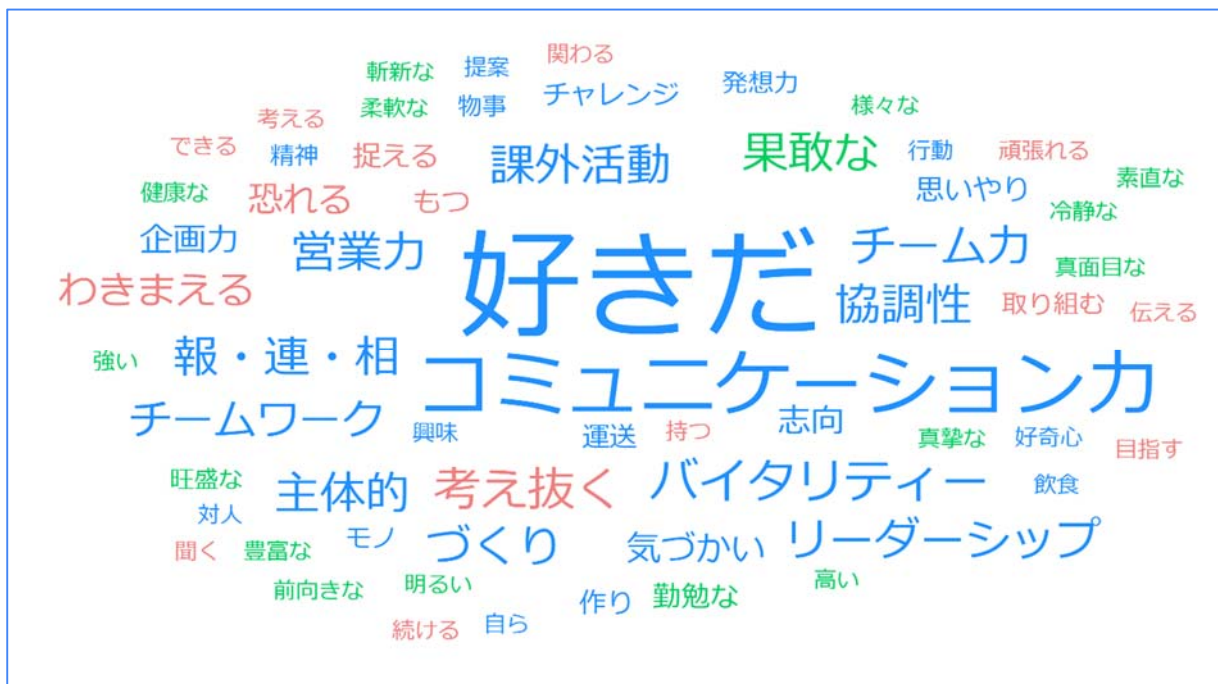
「業界・企業研究」についても、成績によらず、より必要な取り組みだと考えている傾向が見られる。昨年度は成績が良い属性の方が、必要と考える傾向が強かったが、今年度も誤差の可能性もあるが強いと言えば成績が良い属性の方が必要と考える傾向があるとも言える。社会に出てからの経験で、新たに感じる事が多く、その観点から学生時代にもっとしっかりと取り組むべき項目と回答した可能性が考えられる。



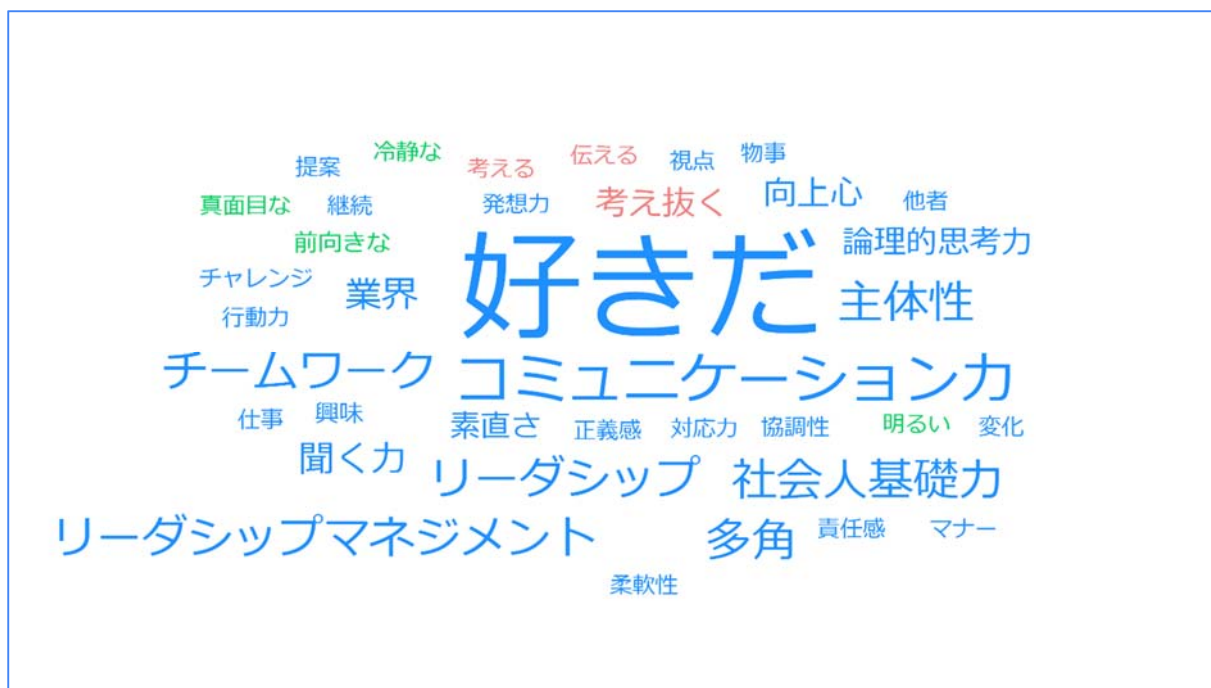
また就職に関する学修については、成績が良い属性よりも、学生時代の成績が思わしくなかった卒業生の方が必要だと考えている。成績上位側の属性は、ある程度就職活動に備え準備を計画的にしていたため必要とは思っていないのか、または特段就職活動のために学修を必要としない知識等を就職活動前に修得していたため、成績属性によって異なる回答傾向になっていると聞かれる。



訪問先企業等が求める人材像について、前述のグラフで集計の関係上、一部集約したが、そのままの文言で Web サイト上でワードクラウド処理を施せる「ユーザーローカル」で処理した結果が以下の図である。



グラフ処理のため、一部集約した文言で Web サイト上でワードクラウド処理を施せる「ユーザーローカル」で処理した結果が以下の図である。



訪問先企業等の採用担当者が考える本学の良いところ

訪問先企業等から聞き取りをした本学の良いところについて集計した結果は以下の通りである。

昨年度とほぼ同じような結果であるが、昨年度よりも学生の紹介・マッチングや再就職支援の項目の回答割合が若干増加傾向にある。

団塊の世代の退職と若年層の人口減少に伴い、企業の人材確保難に対して、本学の人材供給力や就職支援室による人材マッチングの成果が、このような回答傾向の変化として現れてきている可能性があると考えられる。

